

議長	副議長	事務局長	次長	係長	係員

復命書

令和5年2月8日

三沢市議会議長 堀 光雄 殿

民生常任委員会

委員長 遠藤泰子

副委員長 小比類巻雅彦

委員 船見昌功

委員 奥本菜保巳

随行者（議会事務局）

主査 中嶋泰史

令和5年1月25日から1月27日まで、東京都足立区及び新宿区において、当委員会の行政視察を実施したので、その概要について下記のとおり復命いたします。

記

視察概要－1【東京都足立区】

1 日 時：令和5年1月26日（木）10時30分～11時30分

2 場 所：足立区役所 中央館7階 第3委員会室

3 対応者：

こころとからだの健康づくり課 網野課長

こころとからだの健康づくり課 こころといのち支援係 関口係長・池田主事

議会事務局 調査係 田代係長・岡田主査

4 視察項目：インターネット・ゲートキーパー事業について

5 視察概要：

足立区では「気づく つながる いのちを守る」をキャッチフレーズとして、

誰も自殺に追い込まれることのない生き心地の良い足立区を目指し、こころとのちの相談支援事業を行っている。

足立区の自殺者の現状としては年々自殺者数が減少してきていたが、令和3年は前年と比べて微増となっている。男性の自殺者数は女性の自殺者数の倍近くとなっており、男性では50～70歳代が増加傾向、一人暮らしの方や無職の方においても増加の傾向が見られる。女性は20～30歳代が増加傾向となっており男性同様無職の方が多くなっており、男性女性いずれにおいても理由は健康、経済問題等となっている。

事業の一環として、インターネット・ゲートキーパー事業を行っており、この事業は位置情報をオンにしている方がグーグルで自殺に関連するキーワードを検索した場合、相談へ誘導する広告ページを表示する仕組みになっている。そこからの相談者の割合はスマホを使用する頻度が高いと思われる10～30歳代が多くなっており、男女別では男性が2割程、女性が8割程となっている。相談者のうち自殺未遂者は約半分程、計画したことがある方も約半分程となっており、そういう方たちを相談に誘導することができている。インターネット・ゲートキーパー事業は若年者にアプローチしやすい、ハイリスク層を捉えられるというメリットがある一方、男性の相談者の比率が少ない、相談者の感情等を読み取りにくいといった課題もある。そのほか、小学5・6年生、中学生を対象とした「SOSの出し方教育」というものや、ゲートキーパー研修なども行っており、区役所入庁3年目の職員は初級研修が必修科目となっている。

6 各委員からの質疑：

奥本委員Q：インターネット・ゲートキーパー事業を立ち上げる手順はどのようになるのか。

A：足立区ではNPO法人OVAに委託しているが、インターネットの広告表示だけであれば、IT系の会社に頼めばすぐにできるものである。当該法人に委託している理由としては、広告からの相談まで対応可能だからである。相談の機微や、自殺を計画している人をどう導くかといったノウハウがある委託先がないと立ち上がらない事業である。直営とする場合でも職員が分かっていないうまくいかない。インターネット・ゲートキーパー事業の予算は広告表示、相談業務全て込みで年間750万円である。

Q：委託しているということだが、結果はどのように報告されるのか。

A：相談に結びついた方が令和3年度だと115人となっていたが、委託先との定例会を毎月開いていて、継続している案件、良い方向に進み収束に向かった案件を1件1件検証している。また、定例会でなくともこの方は次はこうしてほしいといった連絡などもある。

Q：小中学校でのSOSの出し方の特別授業も大事だと思っているが、教育委員会との関連はどのようにになっているのか。

A：教育委員会と相談、計画して、年度当初に各学校に案内を出している。い

つ派遣を希望する、学校で先生がやるので啓発物をいくつ送ってくださいというやりとりをしたり、教育委員会からも学校にこれをやりなさいと PUSH したりして、どこの学校が受けたという結果もまとめている。

Q：今の時点ではこの授業は全部の学校でやっているのか。

A：全てを保健師がやっているかというとできていないが、学校側でやっているものも含めるとほぼ全てになると思われる。夏休みなどの長期休みの前に学校でやってもらうように声をかけるほか、教員向けの自殺予防研修というものもやっている。

Q：保健師による戸別訪問などといった、一人暮らしの高齢者の方などへの相談はどのような方法をとっているのか。

A：規模が大きいため難しいが、相談の連絡があれば対応している。地域包括支援センターでも戸別訪問はするが、自殺対策のためだけにというわけにはいかない。そのほかゲートキーパーを増やして理解してもらう、各所に相談カードを置いてもらう際になかあれば連絡をくれるよう依頼する、配食サービスで気づいたことがあれば連絡をくれるよう依頼する、なにかしらの会合があつたときに出向きカードを配りながらお伝えするといったことをしている。

小比類巻副委員長 Q：どのようなきっかけでこの事業を始めたのか。

A：足立区では過去においても自殺者が多く、リーマンショックの時にも問題となり、区内で検討し立ち上げることとなった。

Q：無職の方の自殺が多いとなっているが、仕事の斡旋は行っているのか。

A：区ではくらしとしごとの相談センターで生活費や仕事の相談に乗っており、実際に仕事を斡旋しているかは把握していないがハローワークに繋ぐことはしている。

Q：死にたいという方は一度スイッチが入ると止める術がないと自死遺族から聞いたが、実際に止められたということはあったのか。

A：死にたいと思っている方の御家族や見守る方の大変さも相談を受ける者として感じている。死にたい気持ちと生きたい気持ちとで揺れ動いていると思うので、話をよく聞くことで気持ちを落ち着けてもらっている。その後は関係機関で対応してもらっており、私たちだけで防げるものではないと思っている。

Q：ゲートキーパー研修は強制なのか。

A：区で何年目にこれを受けなければいけないというハードル研修というものを設定しており、当該研修を必修としている。入庁3年目の初級研修では、区長も自らのメッセージを必ず伝えている。また、自死遺族の方で知りたいという方から生の声をお話しいただくということをしている。

7 観察の様子と区役所前での集合写真（足立区役所）：



観察概要－2 【東京都新宿区】

1 日 時：令和5年1月26日（木）14時00分～16時00分

2 場 所：新宿区役所本庁舎 5階 第1委員会室

3 対応者：

新宿区議会 桑原議長

地域包括ケア推進課 褐田課長

地域包括ケア推進課 高齢いきがい係 矢野係長・幸光主査

議会事務局 調査管理係 池田係長

4 観察項目：地域支え合い活動について

5 観察概要：

新宿の都市部においては自助や公助は発達している一方、共助については他の地域よりも貧弱になっている。若いうちは学校や職場といった人工的なコミュニケーションが存在するため、自分の居場所を確保することができるが、ある一定の年齢を境にその輪の中から離脱をしてしまうこととなる。学校でいえば義務教育が終われば高校・大学と進学し全然違う環境のコミュニケーションになる。そして、就職をすると仕事が終わってしまえば、地域に戻っても知り合いがないという状況になる。そういう状況になる。そういう背景を基に、地域支え合い活動に力を入れることとなった。

「薬王寺地域ささえあい館」は、高齢者の自立を支援し、世代に関わらず一人ひとりが役割を持ち、互いに助け合い、支え合う「地域支え合い活動」を推進することを目的として、平成30年2月に開設された。高齢者の自立支援のための、多世代による地域支え合い活動の拠点であり、地域の実情やニーズを把握し、コーディネートを行う「地域ささえあい館活動支援員」を配置している。「地域支え合い活動」を行う団体「高齢者等支援団体」の育成、支援を行っている。一定のテーマに沿った活動を定期的に行っていく担い手を養成し、団体の立ち上げ、その後の活動の支援を行っている。

6 各委員からの質疑：

奥本委員Q：高齢者等支援団体のテーマは誰が発案しているのか。

A：高齢いきがい係の担当者が担い手の養成講座を企画し団体を立ち上げている。

Q：運営費はどのようにしているのか。

A：団体独自で会費を集めている団体もあるが、助成金を使っている団体もある。どのような助成金があるかといった情報提供の支援もしている。

Q：担い手はどういった方がやるのか。

A：代表をやりたくないということが問題としてあるが、活動支援担当者が補助をするため、代表になることのハードルを下げることにつながっている。団体が立ち上がる時に誰か一人だけが頑張る団体にならないよう、役割分担をすることを習慣づけると衰退しづらい体质になる。

Q：一人暮らしの方を事業に呼び込むのは具体的にどのようにしているのか。

A：ぬくもりサロンという高齢者等支援団体があり、一人暮らしの75歳以上高齢者に講座の情報も載っているぬくもりだよりというものを配布している。ぬくもりだよりの配布員が一人暮らしの高齢者を連れ出し、音楽を演奏するなどしている。

船見委員Q：これまで様々考えて募集してきたと思うが、募集しても集まらなかつたというものがあればどのようなものか教えていただきたい。

A：新聞作りの団体があるが、新聞作りは難しいため、人員が集まりづらいということがある。

小比類巻副委員長Q：平均年齢は何歳くらいなのか。

A：担い手の養成講座は70歳代が中心である。

Q：70歳くらいになると、男性は出不精になると思われるが、参加してもらうための工夫は何かしているのか。

A：参加するとプレゼントが貰えるという宣伝をしたり、大学の先生に講演会を依頼し、そこで集客を試みたりということをしている。

7 観察の様子と議場での集合写真（新宿区役所）：

